

令和4年度  
興南中学校  
入学試験問題

後期

国語

令和4年2月5日(土)実施 45分/100点満点

受験上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙は開かないようにして下さい。  
解答用紙は別になっています。
2. 問題は【一】～【三】まで3題あります。
3. 試験時間は45分です。
4. 解答は解答用紙の所定のところに記入して下さい。
5. 解答は楷書で丁寧に記入して下さい。
6. 解答用紙には、受験番号、小学校名、氏名を必ず記入して下さい。
7. 試験終了後、問題用紙は持ち帰って下さい。





【一】次の各問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧<sup>かいしよ</sup>に記入せよ。なお、指示された表記方法以外で解答した場合は採点されないため注意せよ。

問一 次の（ ）にそれぞれ漢字を一字入れて、四字熟語を完成させよ。

- 1 言語（ ）断                    2 無我（ ）中                    3 （ ）進月歩                    4 一石二（ ）

問二 次の慣用句の意味として最も適当なものを次のア～オから選び、それぞれ記号で答えよ。

- 1 手にあまる                    2 足が出る                    3 耳が痛い

ア 予算が足りなくなるといこと。                    イ 余計なことをして、迷惑をかけるといこと。

ウ 弱点を言われ、聞くのがつらいといこと。                    エ 持ちきれないほどたくさんあるといこと。

オ 自分の能力を超えているといこと。

問三 次のことわざと、似た意味のことわざとして最も適当なものを次のア～オから選び、それぞれ記号で答えよ。

- 1 かつばの川流れ                    2 のれんにうでおし

ア 馬の耳に念仏                    イ 弘法も筆のあやまり                    ウ あぶはち取らず                    エ ぬかにくぎ                    オ まごにも衣裳

問四 次の各傍線部の敬語の使い方が正しいものには○を、間違っているものは×と答えよ。

- 1 明日は家庭訪問があり、先生が家に参ります。

2 明日は家庭訪問だと先生がおっしゃっていました。

3 突然の訪問に、母もおどろいていらつしやいます。

4 お客様のお話をきちんとうかがいましょう。

問五 次の傍線をつけた語の中で、他の三つと使い方が異なる語を次のア～エから選び、それぞれ記号で答えよ。

1

ア 今日はぼくが、ゴミを捨てに行きます。

イ 昨日は晴れていたが、今日は雨が降りそうだ。

ウ 春になるとたくさんの花が、咲き始める。

エ 楽しみにしていた遠足が、中止になった。

2

ア 来週から土曜講座が始まります。

イ バス停から家まで歩いてすぐです。

ウ 雨ですから今日は家にしましょう。

エ 試合は午前九時から始まります。

※問題は次へ続く

【二】次の文章を読み、後の問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧<sup>①</sup>に記入せよ。なお、指示された表記方法以外で解答した場合は採点されないため注意せよ。

人工知能をつくるときに、よくたとえられるのが、飛行機の例である。人間は昔から空を飛びたいと思っていた。鳥のまねをするような「はばたく」飛行機を何度もつくろうとしたが、失敗した。そして初めて成功したライト兄弟の飛行機は、エンジンを積んだ「はばたかない」飛行機であった。つまり、（ 1 ）。

飛行機の場合は、鳥が飛ぶための「揚力」という概念<sup>\*1</sup>を見つけ、揚力を得るための方法を工学的に模索<sup>\*2</sup>すればよかった。人工知能においても、知能の原理を見つけ、それをコンピューターで実現すればよい。それが人工知能という領域のそもそもの出発点である。

人工知能の研究とロボットの研究をほぼ同じものと思っている人は少なくない。（ 2 ）<sup>①</sup>、専門家の間ではこの二つは明確に異なる。<sup>②</sup>単純<sup>①</sup>に言えば、ロボットの脳に当たるのが人工知能である。

ロボット研究では、脳以外の部分を研究している研究者もたくさんいるので、ロボット研究者の全体ではなく、その一部が人工知能研究者である。そして、人工知能の研究対象は、ロボットの脳だけではない。

（ 3 ）<sup>③</sup>、将棋<sup>しやうぎ</sup>や囲碁<sup>いご</sup>のように抽象<sup>たうしょう</sup>的なゲームの研究では、ロボットのような物理<sup>ぶつり</sup>的な身体は必要ない。また、医師<sup>いし</sup>の診断<sup>しんだん</sup>や弁護士の助言<sup>すけい</sup>のような、入力した情報をもとに判断<sup>かんだん</sup>をする能力の研究にも身体はいらぬ。人工知能研究は、「考える」ことを実現するために、抽象<sup>たうしょう</sup>的な「目に見えないもの」を扱<sup>あつか</sup>っている学問<sup>がくもん</sup>と理解<sup>りかい</sup>してよいだろう。<sup>②</sup>

人工知能研究は、知能の実現に向けた長い旅であって、ある意味で「フロンティア」を指す言葉でもある。したがって、人工知能研究者は、長い間、知能を実現するという夢を持って研究しながら、<sup>③</sup>それがずっと実現できない人たちのなかのだ。

長い歴史の中で、人工知能は、これまで<sup>\*5</sup>紆余曲折を経てきた。人工知能自体はまだ実現していないが、そのための試行錯誤の副産物として、さまざまなものを生み出してきた。<sup>\*6</sup>

たとえば、「音声認識」<sup>\*7</sup>「文字認識」<sup>\*7</sup>「自然言語処理」<sup>\*7</sup>「ゲーム」<sup>\*8</sup>「検索エンジン」などは、すでに現実社会に大きなインパクトを与えているし、日常的に使われている。

これらはかつて、人工知能と呼ばれていたが、実用化されて、ひとつの分野を構成すると、人工知能と呼ばれなくなる。これは「AI効果」と呼ばれる興味深い現象だ。多くの人は、その原理がわかってしまうと、「これは知能ではない」と思うのである。

人工知能ははまだ実現できないので、「知能の秘訣」<sup>ひけつ</sup>は、われわれがまだ見ぬものの中にあるはずである。これが、「まだ見ぬ世界があるかも」と旅を続ける、人工知能という研究分野の青年性<sup>4</sup>であり、いつまでもフロンティアであり続ける理由である。

では、世間の一般の人工知能に対する認識はどうだろうか。

最近、あちこちで人工知能という言葉が聞かれる。「人工知能を搭載した製品を発売」とか、「人工知能を使ったシステムを開発」といった言葉が踊っている。<sup>おど</sup>

〈 中略 〉

「ある製品に知能がある」というときに、最もイメージしやすいのが、「その製品が何か考えているように見える」ことであろう。掃除ロボットの「ルンバ」であれば、部屋の形とゴミの状況<sup>じょうきょう</sup>によって動きが変わる。人工知能内蔵の洗濯機<sup>せんたく</sup>であれば、洗濯物の量や温度、湿度などによって洗濯のしかたが変わる。<sup>5</sup>状況に応じて、どのように動作すればよいかを考え、より「賢い」<sup>かしこ</sup>振る舞いをする。(4)、入力に応じて、出力が変わるということである。

【 松尾豊 『人工知能は人間を超えるか デイープラーニングの先にあるもの』より一部抜粋 ※問題作成の都合上、一部改変 】

【語注】

- \*1 揚力：ここでは飛行機が飛ぶための空気の力のこと。
- \*2 工学的：自然法則を活用して実際の社会に役立てる考え方。
- \*3 抽象的：頭の中だけの考えで、具体性にかける様子。
- \*4 フロンティア：最前線、新分野。
- \*5 紆余曲折：遠回りでいろいろと変化があること。
- \*6 副産物：生産過程で、それに伴い得られる他の産物。
- \*7 自然言語処理：人間が日常で使用している言語をコンピューターに処理させる技術のこと。
- \*8 検索エンジン：インターネットの中から目的に応じた情報を検索する機能。
- \*9 インパクト：強い影響。

問一 (1) に入るものとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ

- ア 生物をまねしたいと思つたら、生物と同じようにする方法を考えればよいのだ
- イ 生物をまねしたいと思つたら、生物とはちがうものにならなければならないのだ
- ウ 生物をまねしたいと思つても、必ずしも生物と同じようにやる必要はないのだ
- エ 生物をまねしたいと思つても、同じにはできないと覚悟かくこしなくてはならないのだ

問二 (2) (4) に入る接続語として最も適当なものを次のア～オから選び、それぞれ記号で答えよ。

- ア つまり
- イ だから
- ウ しかし
- エ たとえば
- オ または

問三 傍線部①「単純」の対義語を漢字で書け。

問四 傍線部②「抽象的な『目に見えないもの』を扱っている学問」とあるが、筆者の述べる定義に基づいた具体例としてふさわしいものには○を、ふさわしくないものには×と答えよ。

- 1 旅行の計画を入力して行程についてアドバイスをもらう。
- 2 オセロゲームで強い中学生選手と対戦する。
- 3 自分の体調を入力保存して健康状態をみてもらう。
- 4 ペット型のロボットと遊んで楽しむ。

問五 傍線部③「それ」がさす内容を本文中から十一字で特定し、抜き出して答えよ。

問六 傍線部④「青年性」とあるが、その意味として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 人工知能はまだ実現せず、研究者は未知なる知能をずっと追い求めており、そのような研究に向かい続ける態度を「青年」と表現した。

イ これまで人工知能と呼ばれたものは、「ゲーム」や「検索エンジン」など若者向けのものが多かったので、それを「青年」と表現した。

ウ 人間の知能という未知の分野の研究である人工知能研究は、まだ新しい研究のため若い研究者が多く、その様子を「青年」と表現した。

エ 人々は、その原理がわかってしまうとあきてしまうため、研究者は常に新しい作品を作らねばならず、その新しさを「青年」と表現した。

問七 傍線部⑤「状況に応じて、どのように動作すればよいかを考え」とあるが、掃除機が人工知能を内蔵している場合、どのような状況と動作が考えられるか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 特定の人の声を覚えて、その人の声の時だけ掃除を始める。

イ コンセントにつながなくても、自動的に動いて掃除をする。

ウ 掃除をしてほしいと思うだけで、スイッチが入り掃除をする。

エ 畳かじゅうたんかを判断して、それに応じた掃除を始める。

問八 本文の内容として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア ライト兄弟は空を飛ばしたいと思い、エンジンを積み、鳥のようにばたく飛行機を作った。

イ 「音声認識」「ゲーム」「検索エンジン」などは、現実社会に大きな悪い影響を与えている。

ウ 人工知能研究とロボット研究を同じものと思っている人もいるが、実際には違うものである。

エ 最近販売されている人工知能を搭載した洗濯機や掃除機は、人間と同様の思考判断ができる。

【三】 興南中学校の太郎君は国語の授業で、柏葉幸子さんの『霧のむこうのふしぎな町』を読み、グループで紙芝居を作ることになった。

次の【文章】は太郎君たちのグループが担当する部分である。【話し合い】は太郎君のグループでの会話の一部であり、【絵】は紙芝居のために作成中の下書きである。これらを読んで、次の問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧  
に記入せよ。なお、指示された表記方法以外で解答した場合は採点されないため注意せよ。

### 【文章】

げんかんのとびらがギーと開き、

「リナかい。そろそろ着く頃だと思っていたよ。はいつておいで。」  
という、しゃがれ声がきこえてきた。

ここが探していた家だと、リナは、初めて知った。

パンのやけるにおいが、おくのほうから流れてくる。もうお昼が近い。リナは、急にお腹がへってきた。家の中をのぞいてみると、げんかんをはいって右手の戸がひらいていた。

そして、そこから、

「何をぐずぐずしているんだい。私は、ぐずはきらいだよ。」

さっきの声が、おこったように聞こえてきた。

リナは、（ 1 ）部屋へはいつていった。へやのまどぎわに、大きな花がらのソファがおいてあり、そのソファの黒いしみのように、小さいおばあさんがすわっていた。

おばあさんは、リナを見ようとしなかった。どんな子どもか、見なくてもわかっているように、クッキーを食べ、紅茶を飲んだ。リナは、どうしていいかわからないまま、自分を無視しているおばあさんを見つめて立っていた。しばらく二人とも口をきかなかった。

( 2 ) 、

「おまえは六年生にもなるのに、あいさつもろくにできないのかい。」

おばあさんが口をきった。

「上杉リナです。お世話になります。」

リナは、頭を下げた。

( 3 ) 「

と、おばあさんがいった。そういったときも、リナを見なかった。リナはおどろいた。

( 4 ) 「

リナがいいかけると、そのことばを追いかけるように、

( 5 ) 「

と、ことばの終わりを、ぐうつとゆっくりおし上げていった。

お父さんは、

( 6 ) 「

と、いっただけだったのだ。リナが、どうしてかとたずねても、

「毎年、長野へいくんだから、たまにはかわったところもいいだろう。」

としかいわなかった。

迎えにもきてくれず、やっと探しあてたと思つたら、こんなにつめたくされる。こんなあつかいを受けたのは、初めてだった。<sup>②</sup>

長野のおばあちゃんなら、

「よくきた、よくきた。」

と、にこにこして迎えてくれるのに。そう思うと、リナはくりとふりむいて、このまま帰ろうと思つた。心ぼそかった。泣くま  
いと思うのになみだがあふれそうだった。駈aに一人でいたときよりも、心ぼそいと思つた。

おばあさんは、そんなリナを見ても平気で、ポリポリとクツキーをかじりつづけている。<sup>③</sup>

「それじゃあ、帰ります。」

と、リナはいつた。それだけ④いうのが精一杯せいいつぱいだった。

すると、

「だれが帰れていつたね。」

と、おばあさんがいつた。

「だって、今あなたが……。」

「なんていつたんだい。」

まったく意地悪な声だった。

リナの目から、なみだが流れ始めた。おばあさんは、リナをちらっと見た。ないていることに気がつくくと、

「リナは、よくわかっていないようだね。このピコット屋敷やしき\*1は下宿屋なんだよ。代々、霧の谷のね。」  
といい、お茶をズーっと一口すすって、こうつづけた。

「それで、ここでは自分の食2いぶちは——つまり、いまのことばで。」  
と、ことばを探し、

「そう、そう、生活費。その生活費は自分ではたらいてかせいでもらうんだよ。」  
といった。そして、

「だから、だれにもせわなんてかけない。ほら、なんていったかね。」  
と、またしばらくことばを探し、

「はたらかざるもの、（ 7 ） 。それなのさ。うん。」  
と、自分のいったことに自分でうなずいた。

「お金なら、わたし、もってきてます。」

リナは安心したようにいったが、おばあさんの一にらみで、またちぢみあがった。

「それは自分のお金なんだね。」

おばあさんは、念おを押すようにリナに聞いた。リナはうなずいた。

「自分でかせいだお金なんだろうね。」

リナは5きよんとして、首をゆっくり左右にふった。そのお金は、お父さんにもらった休み中のおこづかいだった。

「かせいだお金でなきやだめだね。さつき、私がいったら。自分ではたらいてって。」

「でも、私、はたらくっていつても、何もできないんです。」

リナは、どうしていいかわからなかった。

リナは、自分がなにもできないことをよく知っていた。字はへただし、そろばんもカゲンしかできない。学校と学習塾の往復だけで一日が終わってしまうから、お母さんのてつだいなんてしたこともない。だから、料理もせんたくも、まともにはしな<sup>い</sup>。\*<sup>3</sup> カロリー計算は、カテイ科のテストに出るので覚えたが、おいしく作るというかんじんなことは、\*<sup>4</sup> からつきしだめなのだ。そんなことを考えていたリナに、

「手があつて、足があつて、目も鼻も耳も、見たところ異常はなさそうじゃないか。」

と、おばあさんが言った。そしてまた、

「だれが、なにもできないっていったんだい。」

リナは、もうこのソファのしみのような（ 8 ）から、逃げだしたくて仕方がなかった。

【 柏葉幸子 『霧のむこうのふしぎな町』 講談社青い鳥文庫より一部抜粋 ※問題作成の都合上、一部改変 】

### 【語注】

\*1 下宿屋…へや代や食事代を受け取って、他人にへやを提供する家。 \*2 食いぶち…食費。食料を買うためのお金。

\*3 カロリー計算…一日に必要なエネルギー量（カロリー）の計算方法。 \*4 からつきし…まったく。全然。

### 【話し合い】

（太郎さん）紙芝居を作りますので、おばあさんの（ 9 ）を伝えられるような、「絵」を描きたいのですが、何かいい提案は

ありますか。

(南さん) はい。おばあさんの視線や、声の表現が多くあったのですが、「絵」の中で表現できないですかね。

(一郎さん) 南さんのいうとおり、おばあさんの視線は（9）を伝えられそうですね。でも、声の表現を「絵」にするのはどのようにしたらいいのだろう。

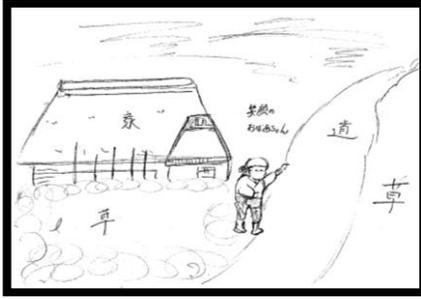
(太郎さん) 確かに、視線の表現でしたら「リナを見ずに」や「一にらみ」などの表現もあったので「絵」でも表現しやすそうですね。それではおばあさんの声について、これら表現する方法は何かありませんか。

(北さん) 声と顔の表情はつながっているのではないのでしょうか。ここでのおばあさんは眉間にしわをよせるような、不機嫌な表情をしていると思うので、表情で表現するのはどうかな。

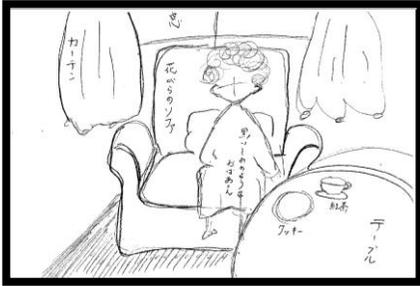
(南さん) それは、とつてもいいと思います。それじゃあ、絵のレイアウトを書いてみますね。

【絵】

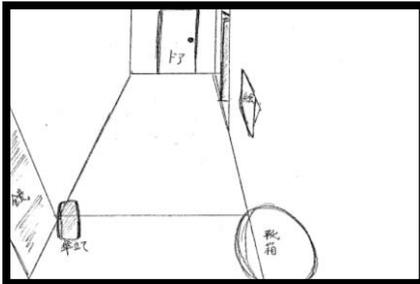
ア



イ



ウ



エ



問一 二重傍線部 a↘c の漢字は読みを、カタカナは漢字に直して答えよ。

問二 傍線部①「ぐずぐず」のように、( 1 )・( 2 )に入る「様子を表す言葉」として最も適当なものを次のア↘オから選び、それぞれ記号で答えよ。

ア ばらばら      イ どうとう      ウ ぎりぎり      エ ほのぼの      オ おそろおそろ

問三 本文中( 3 )↘( 6 )には次の I↘IV のいずれかの会話文が入る。( 〇 )に入る会話文の順番として最も適当なものを次のア↘エから選び、記号で答えよ。

I 「だって、お父さんが……。」      II 「なんていったんだい。」

III 「むかし、せわになった人がいるから、霧の谷へいつてみる。」      IV 「だれがあんたのせわをするっていったね。」

ア I ↓ II ↓ III ↓ IV      イ III ↓ IV ↓ I ↓ II

ウ I ↓ III ↓ IV ↓ II      エ IV ↓ I ↓ II ↓ III

問四 傍線部②「こんなあつかい」とはどのようなことか。最も適当なものを次のア↘エから選び、記号で答えよ。

ア 理解できる回答を得られないままで立たされていること。      イ にこにこしながら中へ迎え入れてくれるということ。

ウ 顔も見ずにそっけない態度で対応されるということ。      エ 冷たい態度で約束事を守ってもらえなかったということ。

問五 傍線部③「ポリポリとクッキーをかじりつつづけている」とあるが、ここに用いられている表現技法として最も適当なものを次のア↘エから選び、記号で答えよ。

ア 擬人法      イ 直ゆ法      ウ 隠ゆ法      エ オノマトヘ

問六 傍線部④「それだけというのが精一杯だった」とあるがそれはなぜか。その理由として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 会話のやりとりの中でどうしていいのかわからず、泣くのをがまんしていたから。

イ 会話のやりとりの中で驚きを隠せず、怒りをおさえるのが大変だったから。

ウ 会話のやりとりの中でつらくなり、この場の雰囲気明るくしたかったから。

エ 会話のやりとりの中で混乱し、なにも考えることができなくなったから。

問七 ( 7 ) を含む一文は、「はたらく」ことに関する慣用句である。( 7 ) に入る語として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 熱さを忘れる      イ 魂百まで      ウ 突き合わせる      エ 食うべからず

問八 傍線部⑤「きよとんと」からうかがえる感情として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 安心      イ 悲しみ      ウ 怒り      エ 驚き

問九 ( 8 ) に入る適当な言葉を、本文中から五字で抜き出して答えよ。

問十 【話し合い】で、太郎さんが提案している( 9 )に入るおばあさんの人物像として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 優しさ      イ おろかさ      ウ 怖さ      エ おもしろさ

問十一 【話し合い】での、太郎さんの二回目の発言の効果について、最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 自分の意見を発言することで、参加者の意見の共通点を明確にする効果。

イ 自分の意見を積極的に発言することで、ほかの参加者が発言しやすい雰囲気を作り出す効果。

ウ 参加者の発言をまとめながら、話し合いの方向性を示していく効果。

エ 参加者の発言のわかりにくい部分を示し、話し合いの内容をわかりやすくする効果。

問十二 【絵】について、南さんが【話し合い】を参考に書いたレイアウトとして最も適当なものをア～エから選び、記号で答えよ。

※問題は以上